

5月23日 使徒言行録2章1~11節 今日の説教から

説教題：「私たちに注がれる力」

キリスト教を学ぶ上で「言語」というものは欠かせないものなのですが、私はこれが特に苦手でした。聖書で使われている単語は私たちが普段使うことがない単語も結構ありますから、外国語の単語や文法を学んで聖書を読むことはとても難しいものです。ただでさえ私たちは、世界で一番難しい言語のひとつである「日本語」を使って生活をしていて、しかしそれを「完全に使いこなせている」とはなかなか言えません。聖書を日本語で読んでいても、普段日常では使わない単語、例えば「罪」や「悪霊」などを理解することは難しいですし、今日の個所で語られる「聖霊」という言葉も、なかなか私たちには理解しきれない部分が大きいものです。

私たちは、信仰の先達によって行われた「翻訳」という業によって、今私たちが持つ聖書の形でイエス様の福音を受け取ることが出来ています。ギリシャ語で書かれた聖書しかなかった時代から、ラテン語に翻訳され、ドイツ語や英語に翻訳され、そして日本語に翻訳された聖書が作られました。日本語訳の聖書も、時代に合わせて何度も翻訳が見直されて、新しく聖書に触れる人も理解することが出来るようにと考えられています。ここには間違いなく、ペンテコステの出来事の中で弟子たちに実現した、「理解できる言葉で福音を伝える」という聖霊の業が現れています。

私たちにも、使徒言行録に書かれているように、洗礼を受けたその時に聖霊が注がれています。しかし、弟子たちがこのペンテコステの出来事で遭遇したような、「炎のような舌」を見たわけでもありませんし、突然知らない国の言葉が喋れるようになるという、不思議な現象が私たちの身に起きたわけでもありません。では、私たちに注がれた聖霊は、どのような力によって私たちの信仰を支えてくれているのでしょうか。

今日の聖書箇所の中で、聖霊は弟子たちに「相手に伝わる言語」を与えていましたが、この言語というものは何も「外国語」に限ったものではありません。私たちはこれまで生きてきた中で、それぞれの社会の中で身に着けた言葉を使っています。神学校で使われる専門用語が神学校の外ではなかなか通じないように、この岩手県で使われている言葉が地元の人にはしっくりくるように、また同じ職業の人同士だからこそ通じる表現があるように、私たちは同じ日本語を使っているながら、どこか少しずつ「違う言葉」を話しています。だからこそ、その言葉を話している「私たち」だからこそ、「その言葉でイエス様の言葉を伝えることが出来る相手」がいるのではないでしょうか。

聖書の言葉は、そのまま聞いても「別の国の言葉」、まさに「自分には関係ない言葉」に聞こえてしまうかもしれません。しかし、私たちは聖書の言葉を受けて、聖霊の力を受けて、「私たちの言葉」としてその福音によって受けた喜びを、希望を、誰かに伝えることが出来るようになっています。それが、私たちに注がれている聖霊の持つ力なのです。その力によって私たちは兄弟姉妹や隣人たちと共に、喜びも慰めも、神様が私たちに注いでいるすべての恵みを分かち合うことが出来るのです。聖霊によって力づけられた私たちの伝道の歩みに希望を抱きつつ、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。